

第4回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者

受賞者 ヨーゼフ・クライナー Josef Kreiner

現職 ボン大学名誉教授 法政大学国際日本学研究所客員所員
生年月日 1940年3月15日, ウィーン
国籍 オーストリア



授賞業績・授賞理由

ヨーゼフ・クライナー氏は長きにわたって文化人類学および日本学の研究に取り組んでこられ、その成果は日本語、英語、ドイツ語を駆使した著作や編著に結実している。氏の研究業績は西南諸島の民族誌、日本学、人類学史の三分野に大別でき、それぞれの領域で草分け的な研究を発表してきた。とりわけ沖縄およびアイヌ文化に関心を寄せ、地域的な差異のない「単一の日本文化」という通念に異を唱えたことは、特筆されるべきである。

クライナー氏の業績はすべて綿密なフィールドワークを踏まえたものであり、奄美諸島での長期間にわたる現地調査に基づく『南西諸島の神観念』(1977年、住谷一彦と共著)は、現在なお引用される古典として南西諸島研究の基礎を築いた作品である。また『世界の沖縄学:沖縄研究50年の歩み』(2012年)は、人類学の研究史のなかで沖縄をいかに位置づけるかをまとめたものであり、現地調査と文献研究を総合した沖縄理解を目指したものとして注目を集めた。

さらにクライナー氏は、西南諸島研究の調査経験を日本全体へと押し広げて研究対象を拡大し、ウィーン大学に提出した教授資格取得論文「日本の村落の祭祀組織」(1968年)は、内外の研究を踏まえた新しい視点での日本研究として高い評価を受けた。総じて氏の1960~70年代の研究は、ヨーロッパにおける日本研究に社会人類学的アプローチを導入し、それを方法論として確立したといえることができる。

もう一つ忘れてはならないのは、クライナー氏のオーガナイザーとしての卓越した能力である。ボン大学在職中は日本文化研究所長、東洋言語研究所長を歴任し、その後1988~1996年にはドイツ日本研究所初代所長として、ヨーロッパの日本研究の拠点形成に尽力した。この時期に特筆すべきは、ヨーロッパの博物館・美術館での日本展示の実現に多大な貢献をしたことである。なかでも2003年にボンで開催された展覧会 *The Beauty of Japan — the Soul of Japan* ではゲストキュレーターを務め、10万人以上の来場者を迎えた。

最後にクライナー氏は「ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)」の設立に率先して取り組み、1975~1979年には選出による初の会長を務めた。EAJSは日本研究に関する初の国際学会であり、現在50カ国にわたる1400人以上の会員を擁している。こうした活動を通じて氏は各地から集う若手研究者に大きな影響を与え、その多くは後に日本研究の要職に就いている。氏の教育者としての多大な貢献も見逃されるべきではない。

以上、ヨーゼフ・クライナー氏は、学術業績、社会活動、教育実績のいずれの面においても余人の追随を許さない優れた研究者であり、選考委員会は氏を第4回受賞者として選んだことを、ここに喜びとともに報告したい。

学歴・学位・職歴

(学歴)

- 1958年～1961年 ウィーン大学 (指導教官・Alexander Slawik)
1961年～1963年 東京大学東洋文化研究所に留学 (指導教官・石田英一郎、岡正雄、中根千枝、江上波夫)

(学位)

- 1964年 ウィーン大学 Ph.D. (文学博士)
1968年 Habilitation ウィーン大学教授資格取得 (Dozent)

(職歴)

- 1971年～1977年 ウィーン大学教授、日本学研究所所長
1977年～2008年 ボン大学教授、日本文化研究所所長、近現代日本研究センター所長(兼任)
1988年～1996年 ドイツ連邦政府立 ドイツ-日本研究所(DIJ)初代所長
2008年～ ボン大学名誉教授(Prof. emer.)
2005年～2010年 法政大学特任教授
2010年～2013年 法政大学国際戦略機構特別教授
2014年～2018年 東京国立博物館客員研究員
2013年～ 法政大学国際日本学研究所客員所員

(主要著書等)

- 1965年 Beiträge zur Erforschung von Religion und Gesellschaft auf den nördlichen Ryūkyū: Der Noro-Kult von Amami-Ōshima (『琉球諸島北部の社会と宗教の研究:奄美大島のノロ信仰』). Beiträge zur Japanologie Vol. 2, University of Vienna
1969年 Die Kultorganisation des japanischen Dorfes (日本の村落の祭祀組織). Vienna: Wilhelm Braumüller
1977年 『南西諸島の神観念』(住谷一彦と共著). 未来社
1987年 Ainu. Jäger, Fischer und Sammler in Japans Norden. (with Hans-Dieter Ölschleger). Cologne: Rautenstrauch-Joest-Museum
1992年 Othernesses of Japan: Historical and Cultural Influences on Japanese Studies in Ten Countries (with Harumi Befu). Munich: Iudicium
1993年 European Studies on Ainu Language and Culture. Munich: Iudicium
1996年 『ケンペルのみた日本』(編著). NHKブックス 762
『地域性から見た日本:多元的理解のために』(編著). 新曜社
1998年 『黄昏のトクガワ・ジャパン:シーボルト父子のみた日本』(編著). NHKブックス 842
2000年 『阿蘇に見た日本:ヨーロッパの日本研究とヴィーン大学阿蘇調査』. 自然と文化阿蘇選書 12, 一の宮町史編纂委員会編
2001年 Ryukyu in World History. JapanArchiv 2. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt
2005年～ Japanese Collections in European Museums 5 Vols. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt
2016年
2011年 『小シーボルトと日本の考古・民族学の黎明』(編著). 同成社
2012年 『日本民族の源流を探る:柳田國男『後狩詞記』再考』(編著). 三弥井書店
『世界の沖縄学:沖縄研究 50年の歩み』. 芙蓉書房、沖縄大学地域研究所叢書

『近代〈日本意識〉の成立：民俗学・民族学の貢献』（編著）.東京堂

Oka Masao: Kulturschichten in Alt-Japan. JapanArchiv 10, 2 Vols. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt

2013 年 『日本民族学の戦前・戦後：岡正雄と民族学の草分け』（編著）.東京堂

『日本とはなにか：日本民族学の二〇世紀』（編著）.東京堂

2014 年 「西洋人の見た日本」、岩波講座『日本の思想』第3巻、頁85-120. 岩波書店

2016 年 『加計呂麻島 昭和37年/1962：ヨーゼフ・クライナー撮影写真集』瀬戸内町教育委員会編. 南方新社

2020 年 Origins of Oka Masao's Anthropological Scholarship (with H. Ishikawa, K. Sasaki and T. Yoshimura). Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt Geschichte Japans. Stuttgart: Reclam Sachbuch Premium

(受賞歴)

1980 年 Corresponding Member Österreichische Akademie der Wissenschaften (オーストリア科学アカデミー通信会員)

1987 年 国際交流基金奨励賞

1991 年 Member Academia Europea (ヨーロッパ科学アカデミー会員)

1995 年 沖縄文化協会・比嘉春潮賞

1995 年 第14回山片蟠桃賞(大阪国際文化賞)

1996 年 Bundesverdienstkreuz 1.Klasse (ドイツ連邦功労十字章一級)

1996 年 Österreichisches Ehrenzeichen für Wissenschaft und Kunst (オーストリア科学芸術名誉勲章第一級)

1998 年 関西学院大学名誉博士号

1997 年 Member Nordrhein-Westfälische Akademie der Wissenschaften (ノルトライン・ウエストファーレン州科学アカデミー会員)

2003 年 国際交流基金賞

2004 年 ドイツ学術振興会 DFG Eugen und Ilse Seibold Preis(サイボルト賞)

2005 年 旭日中綬章

2008 年 EAJS European Association of Japanese Studies 名誉会員

2017 年 第41回南海文化賞